

## 令和6年度 日本災害医療薬剤師学会 役員選挙 立候補者一覧（趣意書等）

### 【理事候補者】

NO	立候補者氏名	会員番号	都道府県	所属	生年	趣意書	JPSDR役職歴
1	大川 恭子 おおかわ きょうこ	0207	兵庫県	武庫川女子大学 薬学部	1959年	1996年1月17日、「阪神・淡路大震災」を経験。兵庫県神戸市長田区で薬局を開局していました。兵庫県薬剤師会の会館は全壊破壊。当時、兵庫県薬剤師会の役員並びに日本薬剤師会の委員をしていた関係で未曾有の災害の被災地側の薬剤師として日本薬剤師会と連携を図り、手探りのまま様々な情報収集・情報提供・支援調整を行った経験を機に、薬剤師が災害時に医療チームの一員として、また、地域の薬局・薬剤師として支援に関わる大切さを身を持って体験し、本学会を通じて、新しい時代の薬剤師の在り方について共に考え、示していければと思い立候補いたします。	理事（2018年4月～現在） 副会長（2022年4月～現在）
2	桑名 由佳 くわな ゆか	0109	福岡県	一般社団法人 飯塚薬剤師会	1963年	現在実施中である日本トイレ研究所との協働計画を含め、災害時の環境衛生保全に行政薬剤師及び学校薬剤師の経験と公衆衛生学修士の専門性をもって取り組んでいきたい。特に避難所の環境衛生管理に薬剤師の専門性を活かせるということを広く他職種にも周知できればとの思いを持っている。	理事（2022年1月より）
3	辻野 悦次 つじの えつじ	0321	大阪府	大阪府健康医療部 生活衛生室	1977年	これまで、当学会において、薬剤師の職能を活かし避難所における対公衆衛生に関わることが必要であると提唱し、令和5年度から避難所公衆衛生に関するプログラムを盛り込んだ。今後、発生が懸念される南海トラフ巨大地震などの際により多くの薬剤師が能力を発揮するため、引き続き、行政薬剤師の視点を活かした支援薬剤師との連携の架け橋となるために取り組んでまいります。	理事（教育・研修担当：2022～2023年度）
4	根本 昌宏 ねもと まさひろ	0296	北海道	日本赤十字北海道看護大学	1970年	災害医療は阪神淡路大震災以降、数多くの災害を経て目覚ましい進歩を遂げました。しかし避難した後、長期間続く避難生活の中で健康を損なわれる事案が続いています。私は極寒の地を用いた避難所環境の検証を進めてきました。公衆衛生の観点から、薬剤師が避難環境の整備を実践することは理にかなっていると思います。日本の災害対策に資する本会の活動に、微力ながら貢献させて頂きたいと考えております	理事（2022年～2023年）
5	高岡 由美 たかおか ゆみ	0401	大阪府	社会医療法人弘道会 なにわ生野病院	1963年	大阪府及び豊中市に入庁し、病院勤務・薬事行政（公衆衛生含む）に長年従事してきました。行政としては、大阪府DPATの立ち上げ、COVID 19における医療体制の構築、薬学生や薬剤師会等への災害研修を実施してきました。現在は病院に勤務していますが、災害時の薬剤師の役割がまだまだ浸透していないことを痛感しています。本学会理事として、災害時の薬剤師の役割について、広範囲の分野で周知していきたい。	理事（教育研修委員会担当：2021年）
6	多田 治 ただ おさむ	0001	東京都	有限会社多田薬局	1953年	昨今の日薬学術大会に於いて災害医療の分科会が当然のように開催されますが2005年の第38回広島県大会でコーディネーター兼座長として私が、シンポジストとして西澤健司、増田道雄、村野宏守、山岸美恵子が参加してシンポジウムを開催した事が始まりです。その時のメンバーに渡邊暁洋を加えた6名の発起人と加藤あゆみ、東麻美子、松井映子、高橋一行の4名の賛同者が本学会設立に関わった10名でオリジナル10。サッカーリーグも創立30周年を迎え創立時の10チームをオリジナル10と呼んでいます。私も本学会のオリジナル10の一員としてもう一期役員として活動したいと思立候補致します。	専務理事（2006年4月） 理事（2013年） 副会長（2018年） 理事（2021年）
7	加藤 あゆみ かとう あゆみ	0007	千葉県	日本医科大学付属病院 薬剤部	1964年	当学会は現在のところ、2回目の新体制生まれ変わり途上にあります。当学会の根幹をなす研修会をはじめとして、学術大会、学術論文の掲載、他団体との連携など軌道に乗りかけた途中で訪れたコロナ期を乗り切り、今改めて活動を再開したところであります。現体制での完成まであと一歩といった感を持っており、設立当初から運営に携わった者として、その一歩を見届ける責任を感じており、引き続き時期役員に臨む所存です。	会計（2009年～2015年） 総務（2016年～現在）
8	渡邊 暁洋 わたなべ あきひろ	0006	埼玉県	兵庫医科大学 危機管理医学講座	1974年	立ち上げより、本会に関わり、DMAT、国際緊急援助隊などに参加し、支援薬剤師の研修会などを企画運営してまいりました。現在は、当会の会長を拝命し、日本薬剤師会、DMATなど医療チームとの連携、そこにとどまらず多機関、他組織との連携を図れるよう努めてまいりました。本学会は薬事業界における災害医療・薬学に取り組んでいる、唯一の学術団体であることを自覚し、本領域の発展に努めてまいりたいと考えております。	理事 副会長 会長 研修委員会
9	恵谷 誠司 えや せいじ	0012	山口県	山口東京理科大学薬学部	1963年	これまでの災害において、薬剤師は、その職能を様々な場面において発揮し、現在では災害医療支援活動等において欠くことのできない存在となっている。そのような状況下、薬学教育コアカリキュラムに災害医療が盛り込まれているが、現状は十分な教育がなされているとは言い難い。貴学会の活動に積極的に関わり、薬学教育、薬剤師卒業後教育等において災害医療支援に対応できる人材の育成、啓発等に努めたいと思立候補した。	現 理事
10	林 秀樹 はやし ひでき	0113	岐阜県	岐阜薬科大学	1973年	私は本学会の「東日本大震災1周年復興祈念研修会」において、本学会理事であった故・近藤剛弘博士に誘われ本学会に加入し、近藤先生の思いを引き継ぎ、第6回学術大会を岐阜で開催させていただきました。今後は、学術団体としての学術面を強化するため、災害薬事に関する新技術開発や新規エビデンスの発信などを積極的に推進し、本学会が国内外の災害薬学関係者の中で重要な役割を果たせるように努力したいと考えています。	第6回学術大会 大会長（2016.1） 理事（2016-現在） 編集委員会委員長（2016-2021） ホームページ委員会委員長（2016-2021） 学術委員会委員長（2021-現在） 事例検討委員会委員（2021-現在）
11	和泉 邦彦 いずみ くにひこ	0199	愛知県	藤田医科大学医学部 地域医療産学連携共同研究講座	1971年	この2年間、教育・研修委員会委員長として、コロナ禍で中断した研修をオンライン上で再開することに尽力してきました。その中でも、会員に対し、コロナ禍で注目された公衆衛生ニーズや、ローカライゼーションの流れを踏まえた情報提供を行うことを優先し、委員一丸となって新コースを作成しました。引き続き、有益な情報を会員にあまねく届けられるよう、コンテンツのアップデート及び受講しやすい環境づくりを進めてまいります。	理事 第9回学術大会大会長 教育・研修委員会委員長 学術委員会 事例検討委員会担当理事
12	高橋 文章 たかはし ふみあき	0044	宮城県	宮城県薬剤師会	1966年	不測の事態を踏まえた用意周到な危機管理による医薬品供給、妥当適切は保険医療に資する情報踏まえながら正しい方向性を導き出せるよう努力したい。また、新しい体勢において、安心して安全で魅力ある組織として活動したい	理事（R3）
13	小林 映子 こばやし えいこ	0009	東京都	日本赤十字社医療センター 薬剤部・国際医療救援部	1975年	本学会は災害医療分野における薬剤師の専門学会として稀有な存在といえる。薬学教育と社会人教育において、災害医療における薬剤師の貢献と期待される人材育成につながるような研究や情報共有が行われる組織として、さらに発展していくことが課題と考える。そこで、国内・国際での災害対応経験と人材育成や学会活動などを通して得た知識や人脈などを活かして本学会に貢献し、研究推進と教育体制の整備、突発的な災害薬事多職種・他機関との連携構築に向けて尽力していきたい所存である。	理事（2018年頃） 現 副会長
14	荻田 義明 おぎた よしあき	0130	神奈川県	横浜市立大学附属市民総合医療センター	1975年	近年の災害発生増加や厚生労働省の第8次医療計画に「災害薬事コーディネーター」の文言が明記されたことから、災害時の薬剤師に対するニーズ、災害医療薬剤師学会への期待も高まっていると思います。そこで、微力ではありますが本会理事に立候補させていただき、会員の皆様とともに、災害時の医療における薬剤師の活動の幅を広げ、全ての薬剤師に災害時の医療を学ぶ機会を設けていくことの一翼を担わせていただきたいと思います。	研修委員会(2018年4月～現在)
15	江川 孝 えがわ たかし	0126	福岡県	福岡大学薬学部	1964年	この度、日本災害医療薬剤師学会理事として立候補させていただきました江川孝です。本学会では、教育・研修委員会、事例検討委員会、学術委員会、国際交流委員として本学会の活動を行ってまいりました。第8次医療計画において被災地の医薬品等や薬剤師及び薬事・衛生面に関する情報の把握やマッチング等を行うことを目的として災害医療コーディネーターは、都道府県から任命される薬剤師であると職種指名された。国からの災害薬事における薬剤師への期待は、益々大きくなっており、引き続き本会を通して薬剤師の職能を拡大したいと考えております。	理事（2018年） 副会長（2021年）
16	瀬戸 弘和 せと ひろかず	0013	静岡県	伊東市民病院	1977年	学会創設時より理事に就任し、会の運営を通し災害医療の普及に努めて参りました。理事の再任が認められた場合、災害医学会などをはじめ様々な学会や機関と連携をはかることで広い視野を持った薬剤師の育成を目指し、災害時に活動できる薬剤師を増やしていきたいと思います。研修のあり方なども含めて体制を検討し、多くの会員が災害医療を特別なものではなく日常の中にあるものとして学んで頂けるよう尽力したいと思います。	理事（2006年4月～） 研修担当 ホームページ委員 総務従事 第7回学術大会大会長（2018年2月）
17	鈴木 康生 すずき やすお	0046	埼玉県	アイアールファーマシー株式会社	1977年	日本災害医療薬剤師学会理事として災害医療支援薬剤師の育成に務めてまいりました。今後も災害時はもちろんのこと、平時から様々な場所や立場で、災害対応の知識・技能を遺憾なく発揮し活躍できる人材の育成に努め、日本災害医療薬剤師学会の発展のために尽力する所存です。諸先生方のご理解とご支援をお願いして、立候補の趣意書とさせていただきます。	理事（2018年2月～）

### 【監事候補者】

NO	立候補者氏名	会員番号	都道府県	所属	生年	趣意書	JPSDR役職歴
1	西澤 健司 にしざわ けんじ	0002	東京都	東邦大学医療センター 大森病院	1959年	私は、これまで、国内外での災害現場で、被災者の救護や医療支援に携ってきました。また、災害医療の専門家として、災害医療の普及・啓発にも努めてまいりました。監事として、学会の財務や運営の健全性を確保するために、以下のことに取り組んでまいります。学会の予算や決算を適切に監査し、透明性を高める。学会の活動が災害医療の向上につながるよう、積極的に助言・提言する私は、これまでの経験と専門性を活かし、日本災害医療薬剤師学会の健全な発展に貢献していきたいと考えております。	理事 会長